

スマート自治体・シティの推進を

無所属
こうだ ながあき
香田 永明



岡本理事 **A** 計画的に実施している



▲スマート自治体・スマートシティ

問 スマート自治体・スマートシティをどのよう
に計画し実行するのか。
答 「第5次播磨町総合
計画」に掲げられた施策
の一つである「持続可能
な行財政運営を進めるま
ちづくり」というビジョ
ンを達成するため、様々
な事業を実施している。
電子自治体推進事業の
実施により、スマート自
治体およびスマートシテ
ィの推進が図られると考
えている。

問 スマート自治体推進
の重要な施策の一つに働
き方改革がある。ペーパ
ーレス化・テレワーク活

答 蓄電池の普及も必要
である。国などの補助金
も鑑みながら、補助金の
導入を検討していく。
問 公共施設に太陽光発
電システム設置の考えは。
答 太陽光発電をはじめ
とする設備の導入を検討
し、再生可能エネルギー
の利用に努めていきたい。

町内でのPCR検査は
藤原 はりま病院
理事 で実施

問 今後のコロナウイル
ス感染症対策では、検査
の有効活用を進めていく
必要があるとされている。
町内医療機関のPCR検
査の現状は。
答 はりま病院で実施さ
れている。
発熱等・検査医療機関
として、町内で6医療機
関が県ホームページで公
表されているが、検査方
法は公表されていない。

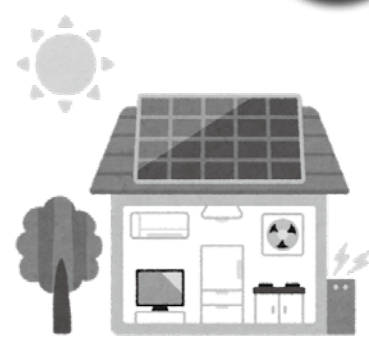
問 現在、太陽光発電シ
ステム設置に補助を行っ

脱炭素社会への取り組みは

日本共産党
のぎた ともみ
野北 知見



藤原理事 **A** ゼロカーボンを目指す



▲再生可能エネルギーの利用を

問 本年開催されたCO
P26において、産業革命
前からの気温上昇を1.
5度に抑えることが目標
となった。2050年ま
でに温室効果ガスである
二酸化炭素排出量を実質
ゼロにする「ゼロカーボ
ン宣言」を行うべきでは。
答 宣言はしていないが、
ゼロカーボンに向け、再
生可能エネルギーの活用
や、省エネルギーの促進
に、住民、事業者、町が
相互に連携しながら、ゼ
ロカーボンを目指してい
く。

問 現在、太陽光発電シ
ステム設置に補助を行っ
ているが、家庭用蓄電池
にも補助制度を設ける考
えは。
答 蓄電池の普及も必要
である。国などの補助金
も鑑みながら、補助金の
導入を検討していく。
問 公共施設に太陽光発
電システム設置の考えは。
答 太陽光発電をはじめ
とする設備の導入を検討
し、再生可能エネルギー
の利用に努めていきたい。

下水道工事の現状は

政風会
ふじわら しゅうさく
藤原 秀策



高見理事 **A** 市街化区域はおおむね供用済



▲下水道工事の現場

問 下水道工事ができて
いない地区はあるのか。
答 市街化区域は、おお
むね供用開始区域となっ
ているが、私道など一部
工事が困難な場所がある。
問 土山駅北地区の下水
道布設工事は。
答 主要な町道では汚水
管は整備されている。駅
北整備計画が決定されて
いない道路位置での汚水
管整備では、重複投資を
避けるべきと考え、布設
を見送っている。

問 令和2年度の接続戸
数は。
答 新設工事は261件、
改造工事による接続は31

件 である。
問 下水道法では、接続
可能となった地域では接
続する義務が課せられて
いる。接続依頼の方法は。
答 文書や訪問による接
続依頼を行っている。
問 未接続の主な理由は。
答 空き家状態で居住の
見込みがないことや、家
屋の老朽化による建て替
えを検討していることな
どが主な理由である。

ツブチ池の常時貯水は
長谷川 一定水位を
理事 保ち管理

問 地盤改良による環境
改善や堤体の改修など
を行い、良好な自然環境の
保全に努めるとのこと
であったが、雑草の繁茂に
より近隣住民に多大な迷
惑をかけている。一つの
案として常時水を貯めて
おくという考えは。
答 野添水利組合による
と、今後は、台風期や稲
の収穫後の時期を除き、
一定の水位を保つように
管理する予定である。

今後の不登校支援策は

無所属
おおきた よしこ
大北 良子



教育長 **A** ふれあいルームで継続支援



▲第2庁舎3階のふれあいルーム

問 不登校の児童生徒数
はコロナ禍で過去最多と
なり、その理由は複雑化
している。ふれあいルー
ムに通う児童生徒やその
保護者からの希望で、形
式が変わったことは。
答 児童生徒の悩みや困
難さは多種多様で、柔軟
に対応していくことを求
められている。今後も対
応を継続する。

問 多様化する不登校の
現実を踏まえた今後のふ
れあいルームの対応は。
答 今後も、利用者や保
護者のニーズを踏まえて
対応していきたい。

問 行政で支援しきれな
い部分について、民間の
支援やアドバイザーの導
入などの検討は。
答 民間のサポート施設
などを含め、多くの選択
肢があることが望ましい
と考える。

学生の団員に認証を
岡本 分団幹部から
理事 相談があれば検討

問 消防団員として活動
した学生に交付する学生
消防団活動証明書は、
就職活動の自己PRで活
用できる。学生の団員を
増やす効果があると考え
るが。
答 本町に大学がなく、
活用は難しい。分団幹部
から相談があれば検討し
たい。

問 週に2回、町内巡回
をしている青パトの日数
や時間を増やすことで、
抑止できる犯罪もあると
考える。今後の見直しは。
答 加古川市と協議中だ
が、来年度は現行の頻度
で実施する。